

保護者の皆様へ

平成23年6月28日(火)

聖光幼稚園園長 林 和代

東北ボランティアご報告

6月18日19日の土日に、ハヤビーは仙台に行って来ました。ボランティアに参加できたのは少しの時間でしたが、その様子をお伝えします。

東北地方の地図

16年前の阪神大震災の時は、直後に友人からの要請があったので、すぐに駆けつけました。それで今年の3月も、東北に住む知人たちと連絡を取りましたが、皆「大きな被害もなく無事に暮らしている」ということでした。それならばと、今度は栃木県那須に住む知人に電話をしました。彼は福島県からの避難者の世話をされていました。しかし私が電話した時には、既に避難所は遠方に移動しており、またまたお手伝いのチャンスを逃してしまいました。

関西に住む友人たちに「ボランティアに行きたい」ことを言うと、様々な反応が返ってきます。「林さんはたくさんの高齢者の介護や看病をしているのだから、それを優先すべきだ。遠い東北まで出かける時間があるんだったら、その人たちのお世話をしてあげた方がいい」とか、「園長という立場を忘れてはいけない。余震や放射能汚染で被害を受けるかもしれない。わざわざ危険な場所に出向くことはない」などの意見もありました。その意見に心が揺れ、テーブルの上にずっと置いていた東北地方の地図のページは、いつの間にか閉じられ、本棚に戻ってしまったのです。

八尾警察直轄隊長S氏の涙

6月8日に参加した八尾警察協議会では、現地で救援活動の指揮をとられた直轄隊長S氏の報告会がありました。辛い思いをされたのか、涙ながらの報告でした。その涙を見た時に、「私も行こう」と決心が固まりました。それで毎週ボランティアに行かれている神戸のK氏から情報をもらい、準備を進めました。

飛行機の窓からの景色

6月18日、午前9時仙台空港着の飛行機に乗りました。着陸体勢に入った飛行機の窓からは、仙台湾が広がります。仙台平野の沿岸部は地図で見た黄緑色ではなかったもので、思わず涙が溢れました。しかし「私はここに泣きに來たのではない、ボランティアとして働きにきたのだ」と自分を諫めました。ところがそのボランティアをさせてもらうためには、涙も吹っ飛ばような苦難の道が待ち受けていたのです。

ボランティアへの道

まず仙台空港で「仙台ボランティアセンターはどこにありますか？」と聞きました。

返事は「???」でした。同じことがJR仙台駅でも起こりました。私は大きな勘違いをしていたのです。仙台駅は日本各地から来られるボランティアの拠点になっていると思っていたのです。ちょうど16年前の阪急梅田駅がそうであったように…。

しかし仙台駅は見事に復興し、日常を取り戻していました。ヘルメットをぶらさげ、汚い服で歩いている私は、まさしく「よそ者」でした。たくさんの人たちに「仙台ボランティアセンターはどこにありますか？」と尋ね、やっと10時半に仙台ボランティアセンターに着きました。

JR仙石(せんせき)線「小鶴新田(こづるしんでん)駅」

汗だくになってたどりついた仙台ボランティアセンターでしたが、受付に行くと「今日のボランティアは9時半で締め切りました」と、あっさり断られてしまいました。

「大阪から飛行機に乗って来たのですが…」と言っても「仕事の要請がないので、帰って下さい」という返事でした。そこには約30名の屈強な男性の方々が、ボランティアの仕事をもらうために椅子に座って待っておられました。

予期せぬ対応に驚いた私は、神戸のK氏に電話しました。K氏が言うには「朝の8時半に行かないと、仕事はもらえない」そうです。それが「ボランティアの掟」だそうです。下調べをしなかった私も悪いのですが、あんな風にあっさりと断られると、【ムカッ】と腹が立ち「もう二度と来ないゾー、来てやるもんか」とやり場のない憤りを覚えました。神戸のK氏が「怒っても仕方がないから、仙台駅にもどって仙台名物の牛タンを食べて帰り〜。仙台でお金を使うのもボランティアの大切な仕事や。それから仙台駅に戻るんやで〜、間違っても石巻方面の電車に乗ったらダメだよ。石巻方面は途中で線路がなくなってしまうからね…」。

傷心の私は仙台駅に戻るため、ボランティアセンター最寄りの『小鶴新田駅』にトボトボと向かいました。

JR石巻駅

『小鶴新田駅』にたどり着いてから約一時間半後には、仙台駅ならぬJR石巻駅に着いていました。というのは『小鶴新田駅』のプラットホームで心が変わったのです。当初は日帰りの予定でしたが、「大阪に帰らずに仙台で一泊し、明日のボランティアに備えよう」と…。

それで神戸から遠隔操作をしていただいているK氏の指示に逆らい、石巻に行くことにしました。明日のボランティア活動は、被災の大きい石巻で行うのかな？と思ったからです(これも大きな勘違いだったのですが…)。それなら時間があるので、石巻で下見をしておこうと思いました。名勝の『松島』までは電車が走っていましたが、それから先はレールが土砂に埋まり不通になっていました。代行のバスが運

行されていました。

バスの窓にうつる景色は刻々と変化していきます。被害のひどいところ、被害の少ないところ。一見、普通に建っている家の10メートル横の家は全壊、というようなこともありました。道沿いのあちらこちらにバラの花が咲いていました。まるで何事もなかったように…。その鮮やかな色は、胸に刺さるようでした。

復興祈願御膳

JR石巻駅までの道は、地震のためにアスファルトが至る所で分断されていました。応急工事はされているものの段差がきつく、その度にバスは最徐行運転になりました。やっと着いた石巻駅では、チラホラとお店が再開されていました。そのお店の一つで「復興祈願御膳」という昼定食を注文しました。店内は活気にあふれていました。

その後、喫茶店に入りました。棚には歴代の仮面ライダーのミニチュアが20個ほど、ずらっと並んでいました。お客さんの注文に追われ、二人の女性が甲斐甲斐しく働いておられました。気になったのは、清潔で綺麗なお店なのに、ハエがたくさん飛んでいたことです。そう言えば、石巻駅周辺の臭いも気になります。ドブの臭いと腐敗臭が混じっています。マスクをされている人が多かったです。

H氏との出会い

6月19日の朝は8時にボランティアセンターに着きました。しかし残念なことに、泥かきの仕事は既に志願者で一杯でした。それで私は、仙台市W区に住んでおられる方々の聞き取り調査班に入れてもらいました。W区の住人が今、どのようなことに困っておられるのか、ボランティアの要請があるのかどうかのニーズ調査です。計10人が2人1組になり、分担して家を訪問します。参加条件の一つに「言葉の分かる人」というのがありました。現地の人の言葉を理解しないといけません。それで県外者の私は、ボランティアリーダーのH氏とペアを組ませていただきました。地元住民のH氏は、3月からの3ヶ月間、ずっとボランティアを続けておられる方です。

ボランティアセンターの車の数が限られているためか、W区まで送ってもらえるのは10時過ぎになるということです。約1時間待つことになります。10人の仲間は輪になって座っていましたが、静かな会話が始まりました。北海道から車で来られ、車中泊でボランティアを続けておられる男性は、銭湯が1800円もしたと嘆いておられました。地元の三人の女性の会話にも、興味深いものがありました。「今は物が揃ってきたからいいけど、少し前までは3時間並んで、やっと5品だけ買えるような状態だったものね」「そうよね、あの頃は1日2食がやっとだったから、皆、痩せたよね」「食器とか3分の2は壊れてしまったから、物に対する執着が消えたわ。

新しい物を買わずに、有り合わせのものを使ってるわ」「不揃いの食器でね」というような会話でした。16年前にも同じような話を聞いたな…と、思い出しました。

私が「昨日は朝遅く着いたために、仕事がなかった」と言いますと、女性の一人は「東北の人は遠慮深いから、なかなかボランティアを頼まれないのよ」と説明して下さいました。この「遠慮深さ」というキーワードは、それから1時間後、ひしひしと実感することになりました。

10時半にはスタッフの運転でW区に着きました。5組のペアは待ち合わせ場所とか時間を確認し、渡された地図を頼りにそれぞれの地域に向かいました。私たちのペアでは、H氏が話しをされ、私がそれを筆記するというように役割分担をしました。H氏は上手に話しをされますので、被災者の方々の現状を適確に把握することができました。現地で聞き取った内容を元に、報告書を作成しないといけないので、書記担当の私は必死に記録していきました。21軒回ったうち、3軒の家は取り壊しを計画されています。概して、新しく改築された家は、床を高くされているので床下浸水で済みましたが、古い家は床上浸水で無残な状態となっています。

住民の方に共通して言えることは「遠慮深いため、なかなかボランティアを頼まれない」ということです。「ボランティアの方も疲れておられるはずだから、自分たちで出来ることは時間がかかっても自分たちでやろうと思っていた」と言われます。そのような住民のお気持ちを汲み取りながらも、H氏はうまく説得され、具体的な日程と派遣する人数を伝えていかれました。このような努力を重ねていけば、多くの屈強な男性がセンターの椅子に座って仕事を待つ、という問題点も解決できると思います。

昼ご飯は被災のため廃屋となった大きな屋敷の庭で食べました。H氏はホイル弁当を、私は昨日の朝、伊丹空港で買ったパンを食べました。話しをするうちに、H氏は神戸のK氏のことを良くご存知だということが分かりました。K氏と一緒に何度も泥かきをされたそうです。大阪に戻ってからK氏にH氏の話をすると、「Hさんは最初からずっとボランティアを続けておられる、筋金入りの人だ」と絶賛されました。そのように言われるK氏も同じく筋金入りなので、二人が仙台で出合われたのは偶然ではないように思います。また私がH氏に「ペアを組ませて欲しい」と頼んだことも、偶然ではなかったと感じます。腹を立てたまま大阪に帰らなくて良かった、小鶴新田駅で心が変わって良かったと思いました。

私は神戸のK氏のように毎週定期的に通うことはできませんが、また時間を作り、再び「奥の細道」をたどりたいと考えています。